

奇襲鴨越（大野恵造）

翠巒 碧浪 砦を 守り

一の谷の 防備 頗る 固し

義経 敵の 虚を 衝かんと 欲して

密かに 六甲の 一角を 扼す

人馬 一体 忽ちに して 下る

岨々 峻々の 鴨越

潰走の 兵 海上に 逃る

矢は 飛びて 鮮血 波を 彩る

翠巒碧浪守砦 一谷防備頗固  
義経欲衝敵虚 密扼六甲一角  
人馬一体忽下 岨岨峻峻鴨越  
潰走兵逃海上 矢飛鮮血彩波

解説 平家軍の陣営を断崖絶壁の鴨越から攻撃した義経軍の勝利を描いた詩。

語釈 ※鴨越 兵庫県神戸市須磨区の一ノ谷に降りる坂は断崖であった。義経は一ノ谷に布陣する平家を討つため坂を一気に駆け下り、平家の背後について勝利を得たという。  
※翠巒 〓みどりの山。青々とした峰。 ※碧浪 〓青い波。 ※一の谷 〓兵庫県神戸市須磨区にある。 ※防備 〓外敵などを防ぐそなえ。 ※頗る 〓いささか。 ※六甲 〓兵庫県神戸市の市街地の西から北にかけて位置する山。 ※一角 〓一部分。 ※扼 〓しっかりとつかむ。握り締める。 ※岨々 〓峻々 〓山の切り立ったけわしい所。 がけ、絶壁。 ※潰走 〓戦いに敗れてちりぢりに逃げる事。 敗走。

通釈 青く茂った山。青い波が一ノ谷の砦を護り防備は固い。だが、義経は平家の隙をついて、密かに六甲山（鴨越）の断崖絶壁の一角に陣取った。この断崖絶壁からの攻撃は容易くない。この断崖絶壁は鹿が下れると言う。なら馬も下れると判断し、一気に断崖絶壁の坂を下り、平家軍を混乱に陥れると、平家軍は我先にと海に逃れ始めたが、義経軍は逃げる平家軍に向けて矢を放つと、海上は血で赤く彩られた。